

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピースマイル 津田店		
○保護者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職によるリハビリ特化型の療育が高く評価されており、こどもの特性に応じた専門的支援が安定して提供されている点	専門職が連携してリハビリ特化型の療育を行い、こどもの特性に合わせた支援を日々工夫している	こどもの成長に合わせて支援内容を柔軟に調整し、より心地よく過ごせる環境づくりを今後も続けていきたいと考えている
2	生活空間の構造化や清潔さが保護者からも高く評価され、安心して過ごせる環境づくりが継続されている点	学習・活動・療育エリアを明確に分けるなど環境構造化を徹底し、集中しやすい空間づくりを意識している	職員間の連携を大切にしながら、よりスムーズに情報共有できる体制を自然な形で整えていくことを意識している
3	支援内容や計画の説明が丁寧で、保護者との信頼関係が強く、家庭と連携した支援が実現できている点	保護者との対話を大切に、日々の様子や成長を丁寧に共有することで家庭と連携した支援を心がけている	保護者との対話を大切に、安心して相談できる雰囲気づくりをこれからも丁寧に深めていきたいと考えている

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会がまだ広げられる余地があり、今後の成長につながる伸びしろがある点	地域交流の機会が限られているのは、専門的な療育に力を入れているため事業所内での支援が中心になりやすいことが背景にある	地域とのつながりを自然に広げられるよう、無理のない範囲で交流の機会を少しずつ増やしていくことが今後の課題となっている
2	事故対応など未経験の項目については、実際の発生が少ないため保護者に伝わりにくい部分がある点	事故対応に関する回答が「わからない」となるのは、実際の事故発生が少なく保護者が具体的な場面をイメージしにくいことが要因となっている	災害・緊急時対応の安心感をさらに高めるため、保護者への周知方法を分かりやすく工夫していくことが求められている
3	家族支援や交流イベントの参加機会が限定的で、今後さらに充実させていける可能性がある点	家族支援イベントの参加が限定的なのは、家庭の予定や負担を考慮して無理のない範囲で実施していることが背景にある	事故発生時の説明をより統一的に行えるよう、伝達方法の整理や共有を進めていくことが必要な取り組みとなっている